

学校目標・経営方針	「TRY SHOWA」を合い言葉に新たな年輪を刻もう 創立以来の歴史を大切に、次のステージへ～生徒の可能性を伸ばし、地域に信頼される学校を創る～
-----------	---

山梨県立甲府昭和高等学校校長 内藤 剛

本年度の重点目標	学習環境の整備と授業力向上を推進し、生徒の可能性を伸ばす。 さわやか教育の実践をとおして、主体的に行動する生徒の育成に努める。 学校の様子を広く周知し、地域から信頼される学校づくりを進める。
----------	---

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自 己 評 価					
番号	評価項目	本年度の重点目標	年度末評価(平成28年3月25日現在)		
			自己評価結果	達成度	
1	①生徒の学力向上のため、学習環境を整備する。	シラバスに沿った、計画的のある50分6校時カセット方式による授業の展開をする。『紫映タイム』(月:7)の活用をする。	教育課程の運用・実施状況や生徒による授業評価、各種学習機会への参加状況	①カセット方式は、大きな混乱もなくスムーズに導入でき、定着している。紫映タイムが「生徒の学びたい思い」に応えているかについては、教職員の肯定的評価は39%に止まっているが、生徒は73%が肯定的に捉えている。学習環境の整備に組織的に取り組んでいるが、生徒の学力向上に結びつくには継続が必要である。 ②生徒の自主的な学習への手帳『未来へ』の利用に関して、83%の教職員が有効と捉えているが、生徒のそれは58%に止まっている。 ③教職員の8割以上、生徒の7割以上がSGHアソシエイト企画によるキャリア教育の充実と生徒の主体的に学ぶ意識に結びついていると捉えている。	B
	②甲府昭和学習システムを学習手帳「未来へ」の活用により家庭学習の時間の確保を行い、授業改善の授業研究を生徒と合同で行う。	学習手帳「未来へ」の活用により家庭学習の時間の確保を行い、授業改善の授業研究を生徒と合同で行う。	教科毎の授業研究の状況、学習時間の統計、授業改善検討委員会の設置		
	③グローバル社会に向けた、キャリア教育・進路学習を実践する。	SGHアソシエイト企画の幅広い展開や大学との連携講座、進路講演会等を通して、生徒の主体的な進路選択を可能にする。	総合的な学習の時間の実践状況や大学との連携講座への生徒の感想、生徒による授業評価		
2	①規範意識の向上、基本的生活習慣の確立のために組織的に取り組む。	校則の遵守、5分前行動の励行、校内美化活動を行う。SNSの使用ルールを中心とした生徒指導の手引きの活用をする。	校則違反者数や5分前遅刻者数	①校則違反者はH26の4名に対しH27は1名と減少し、遅刻者数はH26の353名からH27は251名と、100名以上の大幅減となった。 ②75%の教職員が、「TRY〇〇！」が生徒の自主的な行動育成に結びついていると捉えているが、一方で、「TRY〇〇！」を学校生活で意識している生徒は47%に止まっている。 ③交通事故違反については、H26の36件からH27は60件(事故件数42件)に増加した。道徳意識・交通安全意識の涵養は依然として課題である。 ④保護者の75%が、「しなやかな心の育成プロジェクト」に家庭で取り組んでいると回答している。	B
	②学校生活全般をとおして、生徒が主体的に行動できるように取り組む。	学習活動、HR活動、生徒会活動、部活動などで、「TRY 〇〇〇」を掲げ、自主的に行動する場面を設定する。	授業での生徒の活動の状況、部活動への参加率、生徒会活動での生徒の活動状況		
	③安全と健康に留意して生活することができる生徒を育てる。	「セイフティカード」で、交通安全の意識を高め、自転車・バイクの安全な登校時指導を徹底する。	交通事故違反の件数、安全講習会の実施・参加状況		
	④しなやかな心の育成のため、学校・家庭・地域の連携を強化する。	「しなやかな心の育成プロジェクト」にもとづいた課題を各学年で設定し、PTAと連携して取り組む。	保護者の参加状況やアンケート		
3	①保護者・地域に本校の実践の定期的な広報活動を行う。	定期的な広報紙の発行とホームページの更新を行い、対象・目的を明確にした学校説明会やオープンスクールを実施する。	広報紙の発行、ホームページへのアクセス数、学校説明会・オープンスクール参加者アンケート	①HPのリニューアルにより、教職員・保護者・生徒ともに7割以上が、わかりやすく魅力的なHPと認識している。学校説明会には、1回目708名、2回目876名の参加者があった。また、オープンスクールには、中学生1000名以上、保護者600名以上の申込があった。 ②昭和町の各種催しやTV番組へのトライスの出演により、地域により身近な存在と感じてもらっている。また、トライスが本校のイメージアップに貢献していると回答している生徒は75%を越えている。	B
	②本校の良さをアピールし、イメージアップを図り、生徒募集を積極的に行う。	小中高連携事業等を通して、本校の良さを伝え、トライスの活動等で地域からの本校への信頼を高める。	保護者アンケート、トライスの活動回数、		

学校関係者評価	
実施日(平成28年3月25日)	
評価	意見・要望等
3	・「紫映タイム」「未来へ」および「土曜講座」などの生徒の意欲を引き出すための様々な仕組みが提供されていて、大変結構だと思う。低学年での動機付けは非常に大切であると思うので、これらの仕組みの提供を続けていただきたい。 ・紫映タイム、家庭学習の実現、SGHアソシエイト企画の展開など、努力を評価する。どこまで行っても成就是不という思いを定め、原点である生徒を見つめ、素晴らしい職責を果たすことを願っている。 ・紫映タイムに関しては、参加生徒のみの意見だけではなく、参加していない生徒の不参加理由を聞いてみてはどうか。 ・教職員の思いと生徒の受け止め方に乖離が見られる点は、中学校でも見られる。教職員の意識改革に寄るところが大であると思うが、さらに実質的な取組が必要になってくるものと思う。
4	・2027年開業予定のリニア中央新幹線甲府駅を中心とした街づくり、生活スタイルの在り方などについて、自主的に生徒が意見を述べ、考える場を設けていただきたい。 ・教職員が団結して、毎日努力している姿に感動し、感謝している。 ・生徒からの気持ちの良い挨拶は大変好感が持てる。高校生としての自覚やマナーの養成に、引き続き尽力いただきたい。 ・5分前行動の資料を見ると学年時の指導の大切さを感じる。 ・部活動所属状況では、「文武両道」の指導が根付いている。活動の充実で更に良してほしい。 ・交通事故違反数は横ばいで、何か工夫が必要であると思う。 ・訪問時、生徒からかけてくれるさわやかな挨拶や小中高連携の取組における思いやりのある態度等、さわやか教育の実践に向け、頑張っている様子が随所に見られた。
4	・HPは後方を行う上での有力な手段となるので、手間はかかるが、コンテンツの定期的な更新をお願いしたい。 ・HP更新を評価する。 ・登下校時の挨拶の徹底や地域イベントへの積極的参加による校風アピールが近道であると思う。 ・「TRY Showa」も内容豊富であり、特に中学校側からすれば、出身校をわざわざ入れてくれていることで、生徒の成長した姿が確認でき、ありがたく感じている。また、昭和町内の小中高連携事業では、高校生が一生涯小中学生をリードしてくれており、高校生の在り方を身をもって示してくれ、とてもありがたい。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。